

大腸がん検診における「大腸内視鏡検診の有効性評価のためのランダム化比較試験」の概要について

『広報せんぼく』新年号の昭和大学横浜市北部病院 消化器センター長 工藤進英教授のごあいさつの中でお知らせしましたが、仙北市では、国の研究事業である「大腸内視鏡検診の有効性評価のためのランダム化比較試験」への参加を計画しております。この研究は大腸がんによる死亡率の減少に大きな効果をもたらすことが期待されています。

この度、仙北市の支援体制の上、市の検診事業の一つとして実施することとなりました。

【研究の概要】

- ・従来の「便潜血検査」だけの方法と「便潜血検査」に「大腸内視鏡検査」を1回併用する方法で比較を行います

【対象となる方】

- ・満年齢40歳から74歳までの仙北市民

【参加条件】

- ・研究に関する説明を受けて、同意してくださった方
- ・これまでに大腸がん及びその他の臓器の悪性腫瘍の既往歴のない方

【研究期間】

- ・平成21年度から約10年間
 - 便潜血検査だけの方
毎年の便潜血検査
 - 大腸内視鏡検査併用の方
毎年の便潜血検査に加え、1回だけ大腸内視鏡検査(研究参加から4ヶ月以内)

【その他】

- ・申し込みなど詳しい内容につきましては『広報せんぼく』4月号より連載でお知らせいたします。
- ・研究の概要について、ご不明な点がございましたら、保健課(電話55-1112)までお問い合わせください。

※この研究の主任研究者は、工藤進英教授(昭和大学横浜市北部病院消化器センター長)です。

※この研究は国立がんセンターの倫理審査委員会を既に通過し、昭和大学横浜市北部病院、市立角館総合病院、健康管理センターに於いては現在審査中です。

